

経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
205	経済学演習 (上田貴子)	通年	3年以上：4単位	上田 貴子 政政・経演・国演

副題
Subtitle

経済データ解析：－日本の所得分配－

授業概要
Course Description

本演習は、データ及びデータ分析に基づいて自ら調べ考える姿勢を身につけることを目標とする。演習αではデータ分析を基にした経済学での研究をとりあげる。本年のテーマは、「日本の所得分配」である。所得格差はデータやデータ分析に基づかないままに社会で議論されている向きがあるため、データに基づく経済学文献を講読する。演習βでは、自らテーマを選択し、関連文献やデータの調査を行い、統計ソフトウェアを使用してデータ解析を行って論文にまとめることとする。

授業の
到達目標
Objectives

学生諸君の多くは大学卒業後、社会へ巣立つ。周囲に氾濫する情報や一般常識などを鵜呑みにするのではなく、自分にとっての「正解」を自分でみつけていく能力は、職業生活においても個人生活においても役にたつと本教員は考えている。本演習では、自ら疑問を持ち、調査を行い、数字やデータなどの客観的根拠をもって自らの考えをまとめ、さらにその考えを他者に向かってわかりやすくアピールする能力の基本を身につけることを目標とする。

授業計画
Course Schedule

指定文献の講読を行う。1－2回で1章を読み進める。

- (1) 事前に指定した報告者1－2名が文献の内容を報告する。
- (2) 報告者は要約の配布、板書等を使い、わかりやすく報告を行うことが求められる。
- (3) その他の演習参加者も事前に文献を読んでくることを義務とする。
- (4) 毎回、文献の内容について意見を求め、討論を行う。
- (5) 演習は出席を原則とする。無断欠席は本演習の放棄とみなす。

[春学期]

第1回： 春学期の演習の進め方について・報告の割り当て

第2－13回： 大竹文雄（著）「日本の不平等：格差社会の幻想と未来」を購読する。

第14－15回： まとめと討論、秋学期の文献の選択について

[秋学期]

第16回： 秋学期の演習の進め方について・報告の割り当て

第17－28回： 指定文献を購読する。

(この間、ゼミ論のテーマ選択、中間報告を行うが、回数は演習参加者人数により調整を行う。)

第29－30回： ゼミ論の発表、提出

教科書
Textbook(s)

「日本の不平等：格差社会の幻想と未来」、大竹文雄（著）、2005年、日本経済新聞社。
(春学期の予定、変更の可能性がある。秋学期は未定。)

参考文献
Reference Book(s)

「日本の所得格差と社会階層」、樋口美雄＋財務省財務総合政策研究所（編著）、2003年、日本評論社
「日本の所得分配」、小塩隆士他（編）、2006年、東京大学出版会
「日本の所得と富の分配」、石川経夫（編）、1994年、東京大学出版会

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	60 %	統計分析を必須とする。ゼミ論の書き方と評価ポイントとは別途配布する。
平常点評価 Class Participation	40 %	出席、文献購読の報告、討論への参加、ゼミ論の報告含む。
その他 Other	%	

備 考 Note	<p>ゼミ論の作成のためには、統計学の知識と統計ソフトウェアを使用した統計分析手法が必須であるが、演習ではこれらの授業は行わないので、関連の授業を履修する必要がある。「統計学入門」は既に履修済みであること。また、本演習α終了時まで「統計学」「計量分析」を履修すること。なお、「計量経済学」「現代経済政策分析」の履修も強く推奨する。</p>
-------------	---

関連URL URLs for References
